

第12回 世界鉄道研究会議 WCRR2019 を開催します

2019年6月26日

公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、2019年10月28日から11月1日までの5日間にわたり東京国際フォーラムにて、「カスタマー・エクスペリエンスを高めるための鉄道研究」をテーマに第12回世界鉄道研究会議WCRR2019を開催しますのでお知らせいたします。

【第12回 世界鉄道研究会議 WCRR2019 について】

WCRR（World Congress on Railway Research）は世界の鉄道技術開発状況を概観し、鉄道関係の皆様が今後進むべき方向性についての議論を目的として設立されました。これは鉄道研究に関する国際会議として世界最大の規模を誇るとともに、鉄道研究者、エンジニアのみならず、世界の主要な鉄道事業者をはじめとした鉄道関連機関の経営層が一同に会する会議として他に例をみないもので、今回は20年ぶりの日本開催となります。海外約30か国から500人、日本から500人の参加を見込んでいます。

【テーマ：カスタマー・エクスペリエンスを高めるための鉄道研究】

鉄道が置かれた経済的・社会的環境は国・地域により大きく異なりますが、人の安全・快適な移動およびモノの確実・効率的な輸送を通じて人と人との結びつき・きずなをより強くすることが鉄道の重要な役割である点は共通しています。このような役割を果たすことを通じて、良質な経験を顧客に提供することこそが、鉄道が目標とすべきカスタマー・エクスペリエンスであり、鉄道の存在価値であると考えられます。グローバルレベルで鉄道の価値を高めるためには、鉄道は、高い安全性と優れた環境性能を維持すると同時に、低廉で良質なサービスを提供し続ける必要があります。それには革新的な技術によるイノベーションが不可欠であり、このために研究開発が担うべき役割こそが本会議の主要な議題です。

【WCRR2019の特徴】

WCRRは車両、軌道、電車線、信号通信、構造物、オペレーション、環境対策等の、鉄道の個別技術分野を網羅しているだけでなく、ヒューマンファクター、鉄道経営、交通経済等、より広い視点からの研究も対象としています。このように広範な分野をカバーする会議の性格を踏まえた、WCRR2019の特徴を以下に示します。

- (1) 通常の論文発表セッションに加えて、鉄道関係機関の経営層、異分野の研究者・技術者等の相互交流機会の場として、プレナリーセッション、研究発表、展示会、各種ソーシャルイベント等を実施します。
- (2) プレナリーセッションは、鉄道事業者、鉄道技術のサプライヤーおよび鉄道研究機関の幹部を招いてパネルディスカッション形式で行います（表1）。未来の鉄道のあるべき姿を見据えつつ、鉄道の研究開発の進むべき方向、重点化すべき技術分野、国際協力のあり方などについてそれぞれの視点から議論します。この議論により、会議テーマであるカスタマー・エクスペリエンスの向上のために研究開発が果たすべき役割をクローズアップすることを目指します。
- (3) 研究発表のうち、世界的に関心の高い特定のトピックについて、当該分野の有識者の座長のリーダーシップのもと、掘り下げた議論を行なうオーガナイズドセッ

ションを実施します。「自律運転」「デジタル技術による予防保全」等、注目度の高い先端的な技術テーマに加え、「鉄道の将来予測（ホライズン・スキューニング）」、「国際認証」等、特定の技術分野に捉われない横断的なテーマも設定します（表2）。

- (4) 論文著者による効果的な情報発信と相互交流の活発化のため、ショートプレゼンテーションとポスター発表（PC等による実演も可能）を組み合わせた「インタラクティブポスターセッション」を実施します。
- (5) デジタル技術の鉄道保守への適用に対する関心の高まりを背景に、本会議では状態監視保全（CBM）に関する論文の採択論文数が51件に上ったことから、CBMに関連する一つのオーガナイズドセッションおよび6つの研究発表セッションを設定いたします。
- (6) テクニカルビジットでは、JR各社殿、鉄道・運輸機構殿、東京メトロ殿をはじめとする国内の鉄道関連機関のご協力のもと、日本の鉄道の高い安全性、効率性、利便性、環境性能等を支える鉄道技術の一端に触れる機会を提供します。車両、施設、運転、人材育成等多岐にわたる訪問先（合計11コース）を用意しました。

【会議の概要】

- | | |
|---------|---|
| 1. 主 催 | 公益財団法人鉄道総合技術研究所 |
| 2. 特別後援 | 国土交通省, 東京都 |
| 3. 後 援 | イタリア大使館, 英国大使館, ドイツ大使館, フランス大使館,
オーストリア大使館, 中国大使館
電気学会, 日本機械学会, 土木学会, 海外鉄道技術協力協会,
日仏工業技術会, 日本鉄道技術協会, 日本鉄道システム輸出組合,
日本鉄道車輛工業会, 日本地下鉄協会, 日本民営鉄道協会 |
| 4. 期 間 | 2019年10月28日（月）～11月1日（金） |
| 5. 内 容 | <ul style="list-style-type: none">・ プレナリーセッション
参加者が一同に会するパネルディスカッション形式のセッション。
表1の3セッションを開催します。・ 研究発表
世界的に関心の高いトピックについて、座長のリーダーシップのもと、掘り下げた議論を行うオーガナイズドセッションを10セッション（表2, 論文数43件）、オーラルセッション（口頭発表）を40セッション（論文数170件）、インタラクティブポスターセッションを20セッション（論文数148件）を開催し、計361件の研究発表を行います。・ テクニカルビジット
日本の鉄道技術を体感していただける、全11コースを実施します。・ 展示会等
スポンサー企業を中心に、技術展示を行います。 |
| 6. 場 所 | 東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内） |

WCRR2019 公式ウェブサイト

<http://wcurr2019.org/>

表1 プレナリーセッション

No.	タイトル	登壇者
1	カスタマー・エクスペリエンスを高めるための鉄道運営者の役割	【司会者】 Prof. Anson Jack : Professor, University of Birmingham 【パネリスト】 小縣方樹 : J R 東日本 取締役副会長 小菅俊一 : J R 東海 代表取締役副社長 Mr. Pierre Izard : SNCF, Deputy CEO, CTO Mr. Rolf Härdi : DB AG, CTIO Mr. Marco Caposciutti : Trenitalia, CTO 登壇者未定 : AAR
2	鉄道価値向上のための鉄道産業の貢献	【司会者】 Mr. Nick Kingsley : Managing Editor, Railway Gazette International 【パネリスト】 Mr. Jay Monaco : Amsted Rail, Vice President Mr. Jürgen Shalaht : Siemens Mobility, Head of Innovation Management 西山隆雄 : 総合車両製作所 代表取締役副社長 登壇者未定 : 中国中車
3	将来の鉄道のための研究開発	【司会者】 Prof. Roderick Smith : Emeritus Professor, Imperial Collage London, 【パネリスト】 熊谷則道 : 鉄道総研 理事長 Mr. François Davenne : UIC, Director General Ms. Luisa Moisio : RSSB, Director of Research and Development Ms. Carole Desnost : SNCF, CIO Mr. Carlo Borghini : Shift2Rail, Executive Director 登壇者未定 : 中国鉄道研究科学院

表2 オーガナイズドセッション

No.	タイトル	座長
1	鉄道の将来予測 : 国際協力の観点から	Mr. Oliver Marteaux, RSSB
2	リアルタイム鉄道運用への意思決定支援	Dr. David de Almada, SNCF
3	本線における自律運転	Mr. Rolf Härdi, DB AG Mr. Ralf Marxen, DB AG
4	革新的な製品開発のための国際認証	Ms. Lisa Stabler, TTCI
5	営業列車を用いたモニタリング/設備の診断と状態監視保全	Prof. Giorgio Diana, Polytechnic of Milan
6	安全、コスト削減、危機意識、および革新に拍車をかける走行時の動特性の評価方法を目指した、仮想的な方法による地上・車上測定の実用化	Prof. Gabriele Malavasi, Sapienza University of Rome
7	デジタル技術による予防保全	Mr. Valéry Versailles, SNCF
8	浮上式鉄道および他のガイドウェイ輸送システム (第一部、第二部)	長嶋賢, 鉄道総研
9	鉄道開発のグローバルビジョン	Prof. Boris Lapidus, UIC Mr. Jerzy Wisniewski, UIC Mr. Dennis Schut, UIC
10	研究から利益まで: 革新をどのように迅速化するか	Ms. Luisa Moisio, RSSB Dr. Corinne Talotte, SNCF

(報道機関問い合わせ先)

公益財団法人鉄道総合技術研究所 総務部 広報 TEL : 042-573-7219